

ピーポー

救急だより



編集・発行／さつま町消防本部

〒895-1816 さつま町時吉 366 Tel 52-0119 Fax 53-0119

w e b http://www.satsuma-net.jp/119/

E-mail shobo@satsuma-net.jp

発行 平成 23 年 9 月



ケガ 対策

こんなときどうする？

これから「スポーツの秋」・「行楽の秋」を迎え、身近なところでケガをすることがあります。もし、不幸にもケガをした場合、あなたにもできる応急手当がありますので、身につけておくといざというときに役立ちます。

スポーツのケガ

これから運動会シーズンを迎え、スポーツに親しむ季節がやってきます。「日ごろの運動不足」に加え、気持ちに体の動きがつかない「イメージと現実のギャップ」によりケガをすることもあります。



ねんざ

ねんざの手当ての基本は「患部の安静」と「冷却」です。副え木やテーピングなどで固定し、氷等で冷やします。



※受診科～整形外科

アキレス腱断裂

アキレス腱が切れたと感じたら歩行しないで、つま先を伸ばした状態で副え木を当てて固定します。



※受診科～整形外科

農作業時のケガの予防

収穫の秋に向けて、草刈機やトラクターなどの農業機械をあつかう機会が増えてきます。さつま町内でもトラクターの転落による死亡事故が発生するなど、農作業時の事故が後を絶ちません。

草刈機

ここに注目！

- ①：飛散防止カバーが付いていません。飛んでくる異物でケガの可能性があります。
- ②：作業区域内に障害物が残っています。障害物に刈刃が当たって飛んでくる可能性があります。また、刈刃のキックバックで大ケガの可能性があります。



トラクター

ここに注目！

- ①：路肩に寄りすぎている。脱輪や路肩の崩壊により転落する可能性があります。
- ②：安全フレームが付いていない。トラクターの転落・転倒事故は死亡事故につながる可能性が高く、フレームがついていることで運転者の安全に有効といわれています。





こんな症状があったら シリーズ **すぐ救急車!** 『熱中症』編



熱中症は、室温や気温が高い中での作業や運動等により、体内の水分などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、めまい、体のだるさ、ひどいときにはけいれんや意識の異常など、様々な症状を引き起こし、最悪の場合は死に至る病気です。

熱中症の症状はいろいろありますが、次のような場合には迷わず救急車を要請し、病院での治療が必要です。

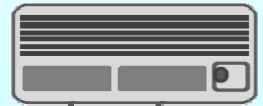
- 自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く、自力で動くことができない。
- 意識がない(おかしい)、全身のけいれんがある。

熱中症によくみられる症状

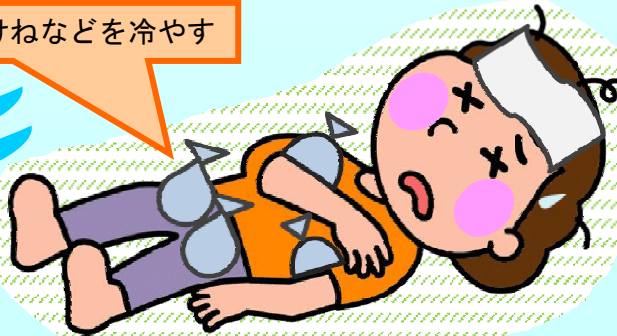
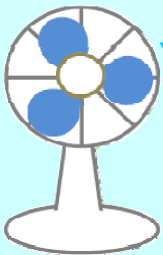
- 重症度**
- ☆軽度
めまい・立ちくらみ・こむら返り・大量の汗
 - ☆中等度
頭痛・吐き気・体がだるい・体に力が入らない・集中力や判断力の低下
 - ☆重度
意識障害(呼びかけに対し反応がおかしい・会話がおかしいなど)・けいれん・運動障害(普段通りに歩けないなど)



- + 涼しい場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる。
- + エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす。



脇の下・太もものつけねなどを冷やす



飲めるようであれば水分を少しずつ頻回に取らせる



救急車の **適正利用** に協力を!!

症状に緊急性がなくても、「早く診てもらえるから」などといって救急車を呼ぶ人がいます。救急車は、ケガや急病などで「緊急に病院に搬送」しなければならない傷病者のためのものです。安易な救急車の利用は「**命の危険がある傷病者への対応の遅れ**」につながります。

また、「日中は用事がある」、「昼間はがまんしていた」などの理由で、病院を夜間に受診する人もいます。夜間は医療機関の受け入れ体制等が整っていない場合も多いため、努めて診療時間内の受診をお願いします。**救急車や救急医療は限りある資源**です。いざというときの皆さん自身の安心のために、救急医療の受診について考えてみましょう。

救急医療町民講座開催

日時：9月8日(木) 14時から
場所：薩摩農村環境改善センター
内容：医師による講演・AEDの使用方法など

集団救急事故訓練

日時：9月22日(木) 14時から
場所：宮之城総合体育館駐車場・総合グラウンド
※当日は防災ヘリが離発着しますのでご注意ください。